

社会貢献の推進

http://www.nichirei.co.jp/corpo/env/env2011/society/society_01.html ホーム > CSRLレポート2011 > 社会のために

● 社会貢献基本方針

わたしたちニチレイグループは、企業市民として広く社会から信頼される企業でありたいと考えます。わたしたちは、素材を見きわめ、おいしさと健康を創り出し、安全で効率的な物流を通じて社会に貢献します。さらに、事業活動以外の分野においても自らの誠意と共感と

使命感に基づき、社会貢献活動を行います。わたしたちは、この考え方にに基づき、食や物流に関する教育、地域貢献、環境保護、災害支援、スポーツ支援を中心に、積極的な社会貢献活動に取り組みます。

■ ニチレイらしい社会貢献活動

Ⅰ 世界寺子屋運動

「世界寺子屋運動」とは、世界中のすべての人に教育機会を提供する発展途上地域への支援活動です。ニチレイは、(社)日本ユネスコ協会連盟の「世界寺子屋運動—インド・ゴカックプロジェクト」に賛同し、2009～2010年度に、インドの南に位置するカルナタカ州ベルガウム郡ゴカック村をはじめとする3カ所に、現地のNGO「バース」の協力のもと、寺子屋を3校建設しました。

今後は、「寺子屋の法人格取得」「募金活動」「寺子屋運営委員へのトレーニング」を基本方針とし、村の子どもたちおよび女性を中心として、読み書き、算数、裁縫などの職業訓練に活用されていきます。

これからも寺子屋の活動を支援しながら、お金だけではないニチレイらしい支援について「ニチレイふれあい基金」活動の中で検討していきます。

※NGO「バース」：1980年創立、カルナタカ州で農業や保健、教育など多岐の分野をカバーする社会福祉活動を展開。



寺子屋入り口のプレート(左)、ゴカック村の子どもたち(右)

Ⅰ アウトオブキッザニア農業体験

ニチレイフーズはキッザニアのオフィシャルスポンサーとして「食品開発センター」パピリオンにおいて、子どもたちの社会・職業体験の応援をしています。

キッザニアの施設から飛び出し、新たな仕事体験プログラム『アウトオブキッザニア農業体験』を開催し、半年以上をかけた田植えから稲刈り、収穫したお米が商品になるまでの一連の仕事を体験するプログラムを実施しました。

■ スケジュール ■

2010年5月	オリエンテーション、田植え
2010年7月	水田の手入れ、農業に関するワークショップ
2010年8月	水田の手入れ、商品開発ワークショップ
2010年9月	稲刈り
2010年11月	収穫祭

田植えでは稲の特性や稲を田んぼに根付かせる方法を知り、手植えがいかに大変な作業なのかを体感。さらに、機械による田植えも経験することによって、農業の省力化についても学んでもらいました。その後の会では自分がお米を食べるまで、どのような経路でどんな人たちが関わり、お米が炊きたてのご飯となり食べられるのかを勉強してもらいました。また、自分が育てたお米やお米を冷凍食品として売り出すために、キャッチフレーズやパッケージデザインを考えてもらいました。お米の特徴をうまく表現したキャッチフレーズやかわいパッケージが出来上がり、お米はキッザニアのデパートパピリオンで販売され、売れ行きは上々でした。

このプログラムを通じて子どもたちはお米を育てる大変さ

Web ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しております

- ▶2010年度の活動と今後の取り組み ▶ニチレイフーズ食育プロジェクト ▶植林活動への取り組み ▶地域清掃活動 ▶フードバンクへの寄付
- ▶TABLE FOR TWOへの参加 ▶ニチレイふれあい基金 ▶使用済み切手の収集 ▶エコキャップ ▶難病患者への支援
- ▶ミャンマーの病院などへ検査薬の提供 ▶京論壇への支援(東京大学と北京大学の国際討論) ▶スポーツ支援 ▶インターンシップ 職場体験学習の受け入れ

を勉強し、『食べもの』の大切さを学び、農業という職業にも興味を持ってくれたのではないかと思います。

2010年度は東京近郊での展開でしたが、今後は関西圏でもキッザニア施設から外に出て職業体験するプログラムを展開していきます。



田植えの様子



パッケージデザイン(非売品)

Ⅰ 山形工場における食育

ニチレイフーズ山形工場では2010年6月、過疎地への食育活動の一環として小学生20名、教員・父兄12名、合計32名を対象とし出張工場紹介を実施しました。

会社概要、カレー・スープの生産ライン、原材料についての説明や、試食・体験(マグネットフィルター強度)を実施しました。普段、工場見学の機会が少ない子どもたちのもとへ出向くことで、次世代を担う子どもたちに、おいしさはもとより食品の安全・安心を訴え、強い親近感を持っていただきました。



授業の様子

Ⅰ 小中学生 社会科見学の受け入れ

ニチレイロジグループでは、周辺地域の小中学生を中心とした校外学習を積極的に受け入れています。

(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道小樽物流センターでは、毎年地元中学校の社会科見学に協力。2010年度は6月



説明を聞く生徒たち

に札幌市立光陽中学校の22名を受け入れました。屋上から一望できる小樽港を説明。また冷蔵庫内では、常温時との違いを体感してもらうため、シャボン玉や濡れ雑巾を使った実験をしました。その他、ジギスカンの原料となるマトン枝肉の観察など、日本の食生活を支えているニチレイの低温物流を身近に感じてもらおうきっかけを提供しました。

(株)ロジスティクス・ネットワーク杉戸物流センターでは、2010年11月に杉戸町立泉小学校3年生を対象に事業所見学を行い、児童54名、引率の先生3名が参加しました。見学の中では、①センター概要の説明DVD視聴 ②構内設備の見学 ③冷蔵庫を利用した実験(冷凍バナナで釘は打てるか? 生花を凍結するとどうなるのか? 濡れタオルを冷凍庫に入れるとどうなるのか? 冷凍庫でシャボン玉を膨らますとどうなるのか?)を行いました。また、荷物の自動仕分けシステムの動きや各シュートに商品が落ちる度に驚いていたり、冷蔵庫の寒さに悲鳴を上げていました。

見学中、一番喜んでいたのは冷蔵庫の特殊性を活かした各種実験であり、濡れタオルや生花を児童たちに差し出す度に大喜びで受け取り、寒さも忘れて実験をしていました。

最後に、マスコットのレイちゃん和ロジロジくんを紹介、アセロラドリンクをお土産にニチレイグループをアピールして終わりました。



生花の凍結実験の様子

V O I C E

(株)ロジスティクス・ネットワーク
杉戸物流センター マネジャー 原澤 光伸



地域に根ざすセンターとして、近隣住民からの見学依頼、ましてや小学生の見学であればニチレイグループに親近感を持ってもらえる絶好のチャンスと捉えました。肩肘を張った見学会ではなく、いかにセンターに親しんで見学をしてもらえるかに腐心しました。想像以上に好評を博したようですので、次年度も依頼がありましたら継続する予定です。